幸福の谷

2022/3号

バルツァム

ニュースレター

学生

エンゲイジメント プログラム

フィールドレポート

シェラブッチェ有機農業協会の 18 人の学生と 1 人のスタ ッフ コーディネーターが、JICA パートナーシッププログ ラムによって実施されたコミュニティ・エンゲイジメント・ プログラムに参加しました。

10 月 14 日、大学の助けを借りて18 人の学生が シェラブッチェ からバスに乗り込み、バルツァム に向かいました。ほとんどの学生は灼熱の太陽の下で苦労することよりも、現場で直接経験を積みながら、バルツァムのコミュニティへの支援が大きな成果を生むことを期待していました。夕方には Gup（ガップ：行政村の村長）、Mangmi、Tshogpa、そして Happy Farmers Group の議長を含むバルツァム の 指導者たちによって温かく迎えられました。歓迎 セッションの後、バルツァムの生徒とコーディネータ ーの紹介が行われ、生徒たちはおいしい夕食を食べて 1 日を終えました。翌日の 10 月 15 日は、この頃に多い雨の日とは異なり、 晴れていて暖かく快適でした。あたかも、生徒たちがバルツァムの農民を助ける準備ができていることを、環境全体が知っているかのようでした。 その後毎日の朝の日課を終えると、生徒たちは健康的な朝食を提供され、その後、野外での作業中の身 の回りの世話について簡単に説明されました。さらに、生徒は5つのグループに分けられました。

各グループは、Mugtangkhr、Jamoong Kumoong、Dzongthong などの異なる chiwogs に行くこと になっていました。とうもろこし、キビ、野菜などの季節作物は、水田を除いてほぼ収穫された後でした。そのため、 生徒ｔちは田んぼに出向いて、できることは何でも手伝いました。例えば、ある人は稲の収穫を手伝い、ある人はそれを脱穀場に運び、稲を脱穀して干し草と分けました。さらに、バルツァムの農家は寛大で活動的で、温かいもてなしを提供してくれただけでなく、目の前の仕事のやり方を何人かの生徒に教え、指導してくれました。私たちが学んだことの 1 つは、現場での作業中は作業環境は活気があり、楽しく 笑いにあふれている必要があるということです。

そのため、誰もが疲れを顔に出さずに働いていました。 またバルツァムの農民は雄牛を結び、水田の近くで白い旗を掲げています。牛が畑を耕し、農民が収穫を得るのを助けるという信念を持っています。 昼食は異なるchiwogsに行ったすべてのグループに、それぞれ提供されました。 バルツァムのコミュニティのタイプを考えると、食事は非常によく準備されており、さまざまなメニューが用意されているため、学生は昼食後の仕事への意欲をさ らに高めました。夕方遅く仕事が終わった後、生徒たちをカレッジバスがGewog gup、Tshopas でそれぞれの場所に迎えに来ました。夕食は、生徒が 3 日間滞在した場所の Trashyang Tshogkhang で提供されました。

10 月 19 日、生徒たちはバルツァム周辺、特にバルツァム チャドル ラカンに連れて行かれ、さまざまな文化史を紹介を受けました。これには、バルツァム ゲオグGupによる包括的な説明が含まれていました。時間の制約により、学生はすべての史跡を訪れることができませんでした。しかし、 参加したすべての学生は、ゲオグ 行政と京都大学の日本人学生が、バルツァムのハッピー ファーマーズを支援するための快適なもてなしとサポート、およびこの機会を与えてくれたことに感謝しています。

Basu Dev Acharja 参加者、
Sherubtse College BA 政治科学および社会学

大学のコミュニティ
エンゲイジメント

私たちのビジョン

- 人々の福利と幸福を増進するために、農村開発を支援する優れた環境を作り出す

私たちの使命

- 制度とコミュニティのつながりを確立する
- 草の根レベルでのGNH値の実践
- 農業、幸福、農村開発に関する社会的および歴史的研究の実施
- 国家的および文化的アイデンティティを維持し、幸福を促進する上でのつながりを確立する
- 農村社会の改善のための支援サービスの提供
- ボトムアップの計画アプローチの強化

私たちの目的

- コミュニティへの参加により、学生が田舎の生活や仕事を学び、体験することができるようにする
- 耳を傾け、コミュニティへの貢献の影響を実証する
- コミュニティへの関与は、公的機関とコミュニティの間に、より深く、より強く、より信頼できる関係を構築するために行う

> コミュニティへの関与は、大学を周辺のコミュニティに再接続する架け橋です。橋を渡るためには、大学とコミュニティの両方が必要です。
>
> -Hlekani Kabiti

第一回　エンゲイジメントプログラム概要

OUTLINE OF THE 1ST ENGAGEMENT PROGRAM

- Gup Mr. Kelzang Dewa による開会の辞
- JICAプロジェクトによるプレゼンテーション 生駒忠大氏
- Sherubtse Organic Farming Societyユニットによるプレゼンテーション
- Khara Nanda Dulal 学生コーディネーター
- 日本の農村コミュニティ活動事例発表
  大学生グループ 安井里緒さん
- Happy Farmersによる2日間の活動についての説明
- グループ Mr. Jamyang Phuntsho 会長

主催 :ペマ•チョーデン氏、プロジェクト•オフィサー

初日
14木/10月/2022

時間	活動	会場	ノート
16:00	学生の到着	トラシャン•ツォカン	
16:00〜18:40	説明会•自己紹介	トラシャン•ツォカン	
18時40分	夕食	トラシャン•ツォカン	

二日目
15木/10月/2022

時間	活動	会場	ノート
8:00	朝ごはん	トラシャン•ツォカン	
9:00〜5:00	農業活動	5 chiwogs の農家の農地	生徒は5人に分かれます グループ
18:00	夕食	トラシャン•ツォカン	

三日目
16木/10月/2022

時間	活動	会場	ノート
8:00	朝ごはん	**トラシャン•ツォカン**	
9:00〜10:00	フォローアップセッション	トラシャン•ツォカン	フィードバック シートの収集と共有 参加者との体験
10:00〜12:00	バルツァムツアー	チャドル•ラカンほか	すべてのものはスクールバス ガップが案内
12:00〜13:00	ランチ	トラシヤン•ツォカン	
13:30〜	出発	バルツァム 〜 カンルン 航空券	プログラムの終了

経験の共有: 教室を超えた社会的学習への足がかり

私たちは午後 2 時 30 分に大学を出て、Samten Sir とバスの運転手に付き添われてバルツァムに向かいました。次に何が来るのか楽しみにしていました。久しぶりの夏休みということもあり、期待以上の盛り上がりと 楽しさでした。地元の人たち、そしてGup（ガップ）と日本人が私たちを待っていたバルツァムに着きました。彼らが心のこもった夕食で私たちを歓迎してくれたのは、とてもうれしく思いました。毛布を持ってきていたにもかかわらず、寝具やマットレスなど、暖かさのために親切に世話をしてくれました。

翌日、料理人から午前8時に準備が整ったと朝食が提供されました。すべての食事には卵を含めるようになっていました。これは私のお気に入りの食べ物の1つでした。 朝食後、私たちは男の子と女の子が混ざった 5 つのグループに分かれ、農作業の支援を必要とするいくつかの Chiwogs に移動しました。私が職場に向かうと き、私は Gup の車に乗っていました。Gup は バルツァムで過ごした時間だけでなく、他の場所についての話もしてくれました。そして、ようやく目的地に到着すると、すぐに仕事に行きました。籾付きの稲束を石の上で脱穀して米を得るように頼まれました。一緒に働いていた70歳くらいのおばあさんに、籾の束を石の上で脱穀するやり方を教えてもらいました。さらに彼女は、 私たちに籾を集めることを教えてくれました。ロープを使って籾をしっかりと運ぶことを学びました。しばらくして昼食休憩となり、田んぼでの作業のさまざまな経験を共有する興味深い休憩になりました。私は他の 3 人の友人と一緒にいて、Sister Pema Chodenは他の 3 人の農民と一緒でした。さらに午後 3 時に、布を使って米から余計なゴミを吹き飛ばす作業をしました。コメは家の中に貯蔵できるように袋に詰められ、男子生徒たちによって夫々の家に運ばれました。 他の所で働いている他のグループの友達に会いに行きました。しかししばらくすると、 ハッピーファーマーズグループの会長のボレロに戻りました。すぐに、帰りながら車内でいろいろな歌を歌って幸せを表現しました。私たちの住居に戻った後、私たちは洗いに行きました。午後 7 時、とてもおいしい夕食をいただき、これで 1 日を終えました。日曜日の午前 8 時に、卵入りチャーハンの朝食が提供されました。

朝食の後、学生にフィードバックシートに記入するように求められる短い会議に参加しました。 その後、生徒たちの経験を共有する機会が与えられ、Gup は 21 世紀における英語学習の重要性についてもアドバイスをくれました。この集まりの後、私たちは Gup と Happy Farmers Group の議長によって チャドル・ラカンに案内されました。丘の斜面にあるチャドル•ラカンはあまりにも巨大だったので、それは私の人生で最も魅惑的な瞬間でした。バルツァムをはっきりと見ることができました。それは美しく素晴らしい経験でした。

それから私は、 スマートフォンで私たちの思い出を記録したいと思いました。 チャドル•ラカンを訪れたこと は、そこに着いた後、私の痛みがすべて消えたので重要でした。 その構造は快適で、通常の芸術を超えていたため、しばらくすると、秘密の最も有名なチャドル像の恩恵にひたることができました。その後、Gupは像の背後にある歴史、その像がどのようにしてそのラカンに置かれるようになったのか、どのようにしてバルツァムの人々にとって非常に貴重なものになったのかを語ってくれました。このように、私たちの最後のイベントは祝福を受け、とても貴重で思い出に残るものでした。聖水（ドラップチュー)に行く予定でしたが、バスの運転手が急いでいたため行けずじまいになりました。夢を叶えることができなかったので、これは残念なことでした。バルツァムでの楽しい滞在はこれで終わり、様々な歌を歌いながらそして様々な経験を思い出しながらキャンパスに戻りました。

経験の共有者:

ヴァワナ ライ

ユニット女性コーディネーター。
Sherubtse Organic Farming Society
B.Sc.環境科学

3年目

“

私の週末は文字通り生産的で価値があったように思えます。農民を助けた、私は自分自身にもっともふさわしいと感じました。一日中私は農家のヒーローになったように感じ ました。 この機会は興味深く、忘れられないものでした。いろいろな人たちと親しく なり、農家様々な穀物をどのように生産しているかを知るにつれて、私たちは彼らをより身近に感じました。楽しく生産的な週末の経験でした。

”

週末;よく過ごした

シェラブッチェ有機農業協会(SOFS：Sherubtse Organic Farming Society ）を代表して、Khara Nanda Dulal がバルツァムでの 3 日間の滞在中の個人的な経験を共有したいと思います。

10 月 14 日の午後、SOFS の 18 名のメンバーがサムテン・ サーに連れられてバルツァムに移動しました。私たちは午後 5 時 30 分までにバルツァムに到着し、Gewog Gup、日本の学生、そして Happy Farmers コミュニティのメンバーに丁重に迎えられました。私たちは自己紹介をしながら興味深いセッションを行い、Hiro San は JICA パートナーシップ プログラムについて紹介してくれました。

シェラブッチェ有機農業協会について話す機会が与えられ、私たちが大学で行っていることを共有する機会が提供されました。翌日、私たちは 5 つのグループに分かれて、5 つの異なる家庭を訪問し、日本人学部生のグップ、マ ンミ、コミュニティ・ツォグパの指導を受けました。午前9時30分、耕地に到着し作業開始。初めて田んぼで働く機会を得たので、人生で最も記憶に残る瞬間でした。稲を収穫し、干し藁から米を分離する方法を実際に学ぶのは、私にとってとても興奮する瞬間でした 。バルツァムの農民と交流できてとても楽 しい時間を過ごせました。チャングラ語で話すのが苦手だったのですが、友人が翻訳してくれ、学ぶチャンスだと説得してくれました。

Tshangla 用語のいくつかも同様です。干し藁を運び、脱穀し、米を選別し、米 を倉庫に運ぶのを手伝いました。私は彼らの文化を探る機会を得ました。彼らは稲を収穫する際に雄牛を結び、稲を食べる前に旗を掲げ、豊作への感謝として供物をします。稲刈りの大変さを実感し、炎天下での作業で得られる貴重な一粒一粒の大切さが分かりました。また、農業を営んでいる私たちは米粒の価値は理解できます。寄宿学校の時間にわざわざ米を無駄に一皿投げたりはしてはいけないのだなと思いました。

3日目はチャドル•ラカンに移動し、グップと日本人の3学生、そしてハッピー•ファーマーズの会長に案内されました。チャドル•ラカンを訪れた時は、 私の人生で最も歴史的な瞬間で、とても幸運でした。私たちはバルツァムのGupに導かれて、ラカンとコミ ュニティ全体の歴史をよりよく理解しました。私たちはラカンの中に入り、カイニエからワンを手に入れました。これは私たち全員にとっての祝福でした。最大限のサポートを提供し、バルツァムのコミュニティへの視察を提供してくれたチームの親切な心と寛大さに、心から感謝しています。私たちはチャドル•ラカンを半日かけて訪れ、住居に降りて昼食をとりました。最後に昼食の後、お互いに手を振って笑顔で出発しました。

> “ユニットコーディネーターとして、JICAパートナーシッププログラムと連携して社会奉仕活動を行うのは初めてだったので、非常に満足しています。私たちのチームは、バルツァムのハッピー・ ファーマーズに支援の手を差し伸べるのに十分な成功を収めたと信じています。最 後に忘れてはならないのは、このようなプログラムを開始し、バルツァムの農家を支援して探索する機会を与えてくれた JICA パートナーシッププログラムに心から感謝したいということです。また、こ のプログラムを成功させるための寛大なご支援とご支援をいただいた、カレッジ・プレジデント、学生担当学部長、およびバルツァムのハッピー ・ファーマーズ のすべてのメンバーに感謝の意を表したいと思います。私たち全員を誇りに思ってくれたメンバーの助けの手は決して忘れません。”

経験の共有者:

カラ ナンダ ドゥラル
ユニット男性コーディネーター
Sherubtse Organic Farming Society 政治学と社会学の学士号 3年目

バルツァムでの楽しい週末

シェラブッチェ有機農業協会のメンバーがJICAプロジェクトでフィールドワークをするためにバルツァムに行くと聞いたとき、とても興奮しました。金曜日、私たち 18 人ほどがバルツァムへの旅を始めました。ここシェルブツェ•カレッジに2年半滞在したにもかかわらず、バルツァムを訪れるのは初めてでした。バルツァムに旅行している間、私 は巨大な山の向こう側に多くの新しい景色を見てきました。 旅はそれほど長くなく、疲れませんでした。夕方にはバルツァムに到着し、 バルツァム•ゲウォグのGupとJICAのプロジェクトメンバーに温かく迎えられました。バルツァムでの寒い天候にもかかわらず、私は新しいことを探求し、学ぶことに興奮でいっぱいでした。

翌日､私たちは農家が米を収穫するのを手伝うために、さまざまな Chiwogs に行きました。仕事をしているうちに、多くのバルツァムの人々と知り合うようになり、彼らの社会を楽しんでいました。バルツァム人々は本当に勤勉で、主に農業に力を入れています。彼らの生活はシンプルですが、楽しさと喜びに満ちています。稲刈りの手伝いをした後、食べ物の大切さに気づき、これからは食べ物を無駄にしないことにしました。今まで農業にあまり興味がなかった私にとって、とても良い経験になりました。若い心や若者が農業を実践する可能性について考える良い機会でもありました。一日の終わりには、伝統的な方法で米を収穫するなど多くの新しいことを学び、米を収穫する際の彼らの文化についても知るようになりました。

> “仕事の後は落ち着きがなく体が疲れていましたが、人々と一緒に仕事をしたり、新しいことを学んだりする喜びは、私をより幸せで自由にしました。 私の人生で大切にされる素晴らしい瞬間です。バルツァムの人々と JICA プロジェクトのメンバーにお会いできてうれしいです。私はこのプロジェクトに参加できたこと に感謝しており、このような機会を私たちに与えてくれたことにとても感謝しています。”

経験の共有者:

Pema Dorji
参加者 歴史
の BA 3 年、

シェラブッチェの学生からのフィードバックシート

参加者 1

Q1.農作業のためにどのチウォグに行きましたか?／地元の農家の誰と一緒に働きましたか?

-Dzongthung chiwog- Dongmae

私たちは 32 人の人々と一緒に働きました。 Tenzin Wangchuk氏と一緒に仕事をしました。

Q2.どんな農作業を手伝い､体験しましたか？
•籾の脱穀•叩き。
脱穀の技術を学び､農作業は疲れると同時に面白いことに気づきました。

Q3.農業関連の活動や地元の農家との会話から､何が面白いと感じましたか?

- 収穫期には、一年中一生懸命働いた果物/成功をついに収穫できるので、すべての農家が幸せで忙しい季節の 1 つです。興味深いのは、バブシェイバブシェイと叫びながら脱穀する文化があったことです。豊作と豊作を願う意味です。

Q4.バルツァムの農業の特徴や問題点は何ですか？
•人手不足（労働者の最も多くは高齢者）
若い世代が働いているのを見ることはめったにありません 。人間 - 野生生物（イノシシ）の紛争。近代的機械の欠如。

Q5.今回と同じような機会があれば、次回は何を期待しますか？
•次回も同様の機会があれば、人間の労働が近代的な機械に置き換わり､より若い世代が農業に携わることを期待したい。

Q6. Bartsham およびプロジェクト メンバーの方々にコメントをお寄せください。

・人々がプロジェクトメンバーは歓迎してくれて、プロジェクトが何かを助けたり貢献したりするのはとても嬉しかった。私たちを歓迎し、このような良い機会を与えてくださった会員の皆様に感謝いたします。

参加者 2

Q1.農作業のためにどのチウォグに行きましたか?／地元の農家の誰と一緒に働きましたか?

・私たちのグループは、 チャドル•ワンディ氏と仕事をするためにジャムン•クムン•チウォグに行きました。

Q2.どんな農作業を手伝い､体験しましたか？
•収穫した籾を叩き脱穀した後、集めたお米を運び、屋根裏にあったチャドルさんの貯蔵室に持っていき、新しい作業をたくさん学びました（叩く•運ぶ）

Q3.農業関連の活動や地元の農家との会話から、何が面白いと感じましたか?

・私が経験した最も興味深いことは、地元の農家がとても親切で、十分で､エネルギッシュであることです。

Q4.バルツァムの農業の特徴や問題点は何ですか？•バートシャムの農業の特徴や問題点：

1. 人手不足。 2. 農業用の不十分な水の供給。3. 若い元気な若者や大人よりも働く高齢者。

Q5.今回と同じような機会があれば､次回は何を期待しますか？

・プロジェクトメンバーが仕事の後にいくつかのプログラムを追加できたら、とても面白くて楽しいでしょう。

Q6. およびプロジェクト メンバーの方々にコメントをお寄せください。

•バルツァムプロジェクトメンバーによる共同活動は、Gupとバルツァムの人々の全面的な支援により成功しました。

参加者 3

Q1.農作業のためにどのチウォグに行きましたか?／地元の農家の誰と一緒に働きましたか?
・Muktangkhar、デポラ氏

Q2.どんな農作業を手伝い､体験しましたか？
•稲刈り、 脱穀

Q3.農業関連の活動や地元の農家との会話から､何が面白いと感じましたか?

・人々との交流は楽しく、彼らはとても歓迎してくれました。彼らは自給自足の米を生産し、商業目的には使用しません。彼らは小さな水田と小さな家族を食べさせていました。興味深いことに、彼らは道路や近代的な施設にアクセスできます。

Q4.バルツァムの農業の特徴や問題点は何ですか？
•農地が傾斜地にある。農業を営む人が減り、農村部から都市部への人口移動。

Q5.今回と同じような機会があれば､次回は何を期待しますか？

・同じ経験をして､できる限り助け､サービスを提供する。
効果的な仕事ができるように､できるだけ多くの人を含めてください。

Q6.バートシャム､プロジェクトメンバーの皆様へのコメントをお寄せください。

・より近代的な技術を使用しており、製品を商品化できれば有益です。

参加者 4

Q1.農作業のためにどのチウォグに行きましたか?／地元の農家の誰と一緒に働きましたか?

-Dzongthung chiwog- ドンメ氏

Q2.どんな農作業を手伝い､体験しましたか？
•主に籾の集荷と脱穀を行っていた。

Q3.農業関連の活動や地元の農家との会話から､何が面白いと感じましたか?

・彼らは、新しい訪問者やヘルパーから眉毛を取り、穀物に入れるという独特の文化を持っています。

バブスイバ=今度はもっと収穫しようという意味。すべての人々は一生懸命働き、友好的であることがわかり、野菜や農地への野生生物の攻撃に関連した問題がありました.

Q4.バルツァムの農業の特徴や問題点は何ですか？
・野生動物との紛争。
•労働者は高齢者が多く、若者の積極的な参加は見られなかった。

Q5.今回と同じような機会があれば､次回は何を期待しますか？

•フィールドワークに出たことのないメンバーがほとんどだったので、みんなの期待に応えるのが大変だった。一緒に仕事ができたらと思っていた。それは非常に生産的で、学ぶ価値がありました。

Q6.バルツァム およびプロジェクト ・メンバーの方々にコメントをお寄せください。
・バルツァムの人々は友好的で歓迎的であることがわかりました。この種のプロジェクトが常に存在し、お互いに助け合い、経験を積む機会を得られることを願っています。

ogle

幸福の谷

第三号

設計者 :Abi Chandra Acharya、別名AB Panda。プロジェクトオフィサー

全著作権所有。このニュースレターのいかなる部分も、発行者の許可なしに、いかなる形式でも複製することはできません。

JICAパートナーシッププログラム

ブータン国東部タシガン県における大学ー社会連携による地域づくりに関する人材育成開発支援

東南アジア地域研究研究所
Center for Southeast Asian Studies